

令和3年度 観光入込み数 増減要因

1. 令和3年度の観光入込み数について

令和3年度の観光入込み数は **1,684,073** 人で、89,875人の減少（前年比94.9%）となった。

【内訳】〔宿泊者数〕 67,008人 9,028人の増加（前年比 115.6%）
〔日帰り客数〕 1,617,065人 98,903人の減少（前年比 94.2%）

2. 増減要因の総括について

令和3年度は上期に2度の緊急事態宣言及び年間を通し4度のまん延防止等重点措置が発令され、各所で外出を避けるよう呼びかけしていたことにより、様々な業態において波及的に入込客数が減少した。

一方、飲食店や旅館といった、新規開業に伴う入込客数が増加したことにより「飲食店」及び「宿泊」での大幅な減少は見られず、また、「ウェルカムしらおいキャンペーン」や北海道の「どうみん割」の効果により宿泊の需要高まり、宿泊においては前年比114.9%と増加実績となった。

令和3年度の入込数減少の大きな要因として、「自然景観」への来訪者及び「文化施設」への来訪者の減少が挙げられる。まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言の発令により、ウポポイ休館及び夏場が最盛期であるクッタラ湖の来訪者減少し、大幅な入込数減少となった。全体として新型コロナウイルス感染症の影響が起因となり前年比94.9%、1,683,480人の入込客数を記録した。

3. 地区別の主な増減要因

虎杖浜温泉地区（竹浦・虎杖浜地区）

虎杖浜温泉地区の全体の観光入り込み数は621,787人で63,156人の減少（前年比90.8%）となった。

【虎杖浜温泉地区の増加要因】

■ 「宿泊（ホテル・旅館・民泊）」 54,176人 2,723人の増加（前年比105.3%）

新たな民泊の開業や湯治の利用が増加したほか、ウェルカムしらおいキャンペーンによる利用者が増加した。

【虎杖浜温泉地区の減少要因】

■ 「日帰り（ホテル・旅館）」 129,854人 6,132人の減少（前年比95.5%）

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用客数が減少した。

■ 「飲食店・みやげ」 290,815人 1,085人の減少（前年比99.6%）

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用客数が減少した。

■ 「自然景観」 115,770人 53,337人の減少（前年比68.5%）

新型コロナウイルス感染症に影響により、クッタラ湖等への利用客数が減少した。

■ 「スポーツ・レクリエーション」 31,148人 5,329人の減少（前年比85.4%）

新型コロナウイルス感染症の影響により、パークゴルフ場等利用者が減少したため。

白老地区（社台～北吉原地区）

白老地区全体の観光入込み数は 1,062,286 人で 26,719 人の減少（前年比 97.5%）となった。

【白老地区の増加要因】

- 「宿泊（ホテル・旅館・民泊）」 12,832 人 6,305 人の増加（前年比 196.6%）
旅館の開業や民泊の人气が高まったことにより増加した。
- 「日帰り（ホテル・旅館）」 3,522 人 3,052 人の増加（前年比 749.4%）
新規開業旅館の日帰り温泉利用客の増加により入込み数増加となった。
- 「スポーツ・レクリエーション」 59,909 人 5,671 人の増加（前年比 110.5%）
全国的に密にならずに楽しめるアウトドアやキャンプの人气が高まり増加した。

【白老地区の減少要因】

- 「飲食店・みやげ」 773,520 人 353 人の減少（前年比 99.9%）
新型コロナウイルス感染症の影響で営業時間短縮となり利用客減少するも、新規飲食店の開店から入込数前年並みに推移している。
- 「自然景観」 10,446 人 5,012 人の減少（前年比 67.6%）
新型コロナウイルス感染症の影響やヒグマの出没により、一時的に施設を休館したことで減少となった。
- 「文化・歴史」 195,926 人 32,893 人の減少（前年比 85.6%）
新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に施設を休館したことで減少となった。
- 「体験・ツーリズム」 5,069 人 2,681 人の減少（前年比 65.4%）
新型コロナウイルス感染症の影響により、教育旅行等が中止、延期となり減少となった。
- 「まつり・イベント」 1,062 人 808 人の減少（前年比 56.8%）
新型コロナウイルス感染症の影響により、密を避けた傾向が強まり来訪者減少となった。

4. 訪日外国人観光客の増減要因

「宿泊客数」	5 人	<u>47 人の減少</u> （前年比 9.7%）
「日帰り客数」	245 人	<u>16 人の減少</u> （前年比 93.9%）

新型コロナウイルス感染症の影響により、国際的な人の往来が制限されているため、今年度の訪日外国人の入込については、在留外国人と推測される。新千歳空港、成田空港、羽田空港においても多くの国際定期便が運休となったことが起因し宿泊客数大幅な減少となっている。

5. 過去 5 年間の入込客数の推移

平成 29 年度	1,735,570 人	（▲ 31,112 人	前年比	98.2%）
平成 30 年度	1,505,404 人	（▲ 230,166 人	前年比	86.7%）
令和元年度	1,596,871 人	（ 91,467 人	前年比	106.1%）
令和 2 年度	1,773,948 人	（ 177,077 人	前年比	111.1%）
令和 3 年度	1,684,073 人	（▲ 89,875 人	前年比	94.9%）